



学校教育目標 進んで学ぶ子 仲良くできる子 たくましい子
児童数 男子499名 女子458名 計957名

TEL (048)222-4383

FAX (048)222-9388

㊦っかりと聞き・㊦くわく未来を語り・㊦すんで学び・㊦れにも仲良くできる しわすだっ子

なぜ 学ばなければならないの？ ～ 人生に立ち向かっていく力 ～

校長 石井 宏明

過日の運動会では、多くの保護者、地域の皆様のご支援ご声援をいただくとともに、PTA役員及びボランティアの皆様には、準備・片付けをはじめとする教職員では手の回らない部分につきましても献身的なご支援をいただきましたお陰で、愛するしわすだっ子も身に付けた力を存分に発揮することができました。改めて感謝し、心より御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。今後とも、「家庭・地域とともに 未来を拓く しわすだ笑楽幸」の実現に向け、ご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、「やったあ、できた」「わかると楽しい」「もっとやってみたい」

各教室、運動場からこんな声が聞こえてくると、うれしいものです。

しかし、中にはこんなつぶやきも、

「先生、なんで勉強しなくちゃいけないの?」「こんなこと、将来、何の役に立つの?」

「いくらやってもできないよ」「めんどくさいなあ」

人はうまくいかない時、結果が悪かった時など、自分の努力不足をふり返らず、他に理由を求めてしまいがちです。

人は、何のために学ぶのか。私たちは人生の先輩として、児童の疑問、思いに明確に答えたいものです。

今さら申し上げるまでもなく、学校で学ぶのは各教科の点数をあげるためだけでなく、児童会活動やクラブ活動での自治的能力の育成、よりよい人間関係づくり、相手や状況に応じた言葉づかいなど、生きていく上での基礎的なことを学ぶことも重要な目的です。

私が幼少の頃、商店街のおじさんが買い物をする母に、このように呼びかけていました。

「石井さん、今日は安いよ。勉強するから買ってよ。」

この「勉強する」の意味は?

たぶん、「儲けは少なくなるけど、(無理して) 売るよ」という意味だと捉えます。

普段より少し無理してでもよい品物を届けたいという気持ちの表れだと思います。

つまり、普段より少し無理をして努力することを「勉強」と言っていると考えます。それを怠れば成果があがらないのは当然と言えるかもしれません。

宮崎教育大学の元学長、林竹二氏は「学んだことの証は、ただ一つで何かが変わることである」と述べ、「一片の知識が学習の成果であるならば、それは何も学ばないでしまったことだ」と言い切っておられました。

「友達と言い争うことが少なくなった」「算数が面白くなった」「ダンスが楽しく踊れるようになった」など、新しい分野に目がいくようになることも勉強なのだと考えます。

『新しい自分を発見するために、一歩踏み出す勇氣、チャレンジ精神をもつこと、自立して生きていくための思考力、判断力、行動力を身に付けることが学ぶ目的ですよ』と言ったら、しわすだっ子たちは納得してくれるでしょうか。

第1学期も今日から後半に入ります。学ぶ楽しさを味わわせる授業づくりに努めてまいります。

